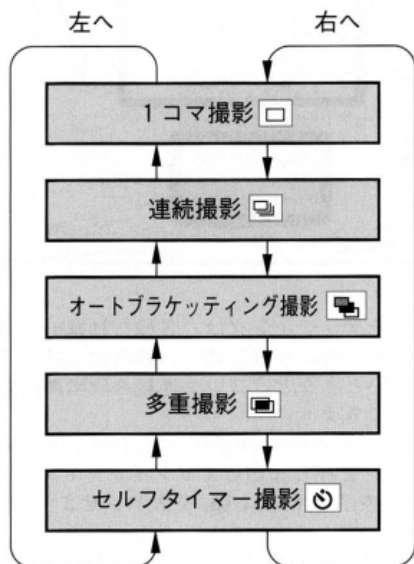


ドライブモードの種類

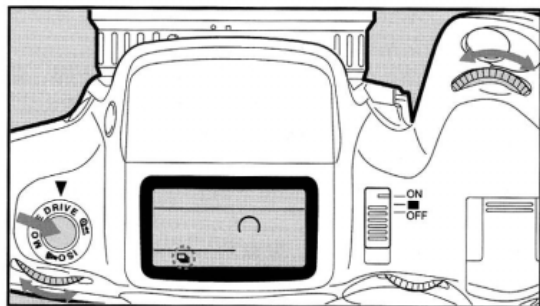


-  : シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
-  : シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。(58ページ)
-  : 3コマ連続で露出補正撮影をします。(58ページ)
-  : 同じコマに、重ねて撮影します。(61ページ)
-  : セルフタイマー撮影をします。(63ページ)

* 電源スイッチがグリーンポジション  の場合、多重露出撮影およびオートブラケット撮影はできません。

応用的な使い方

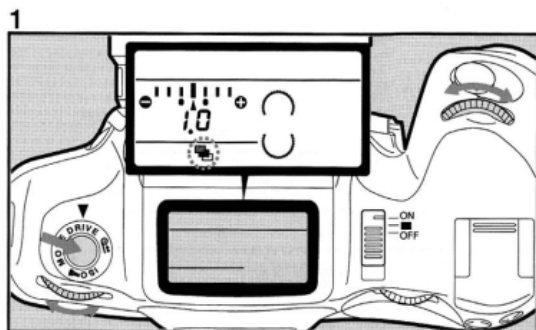
58



1) 連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。

モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。



2) オートブラケット撮影

オートブラケットは、各種自動露出で撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正値を決定にくいときなど、3コマ連続の段階露出を行うことができます。

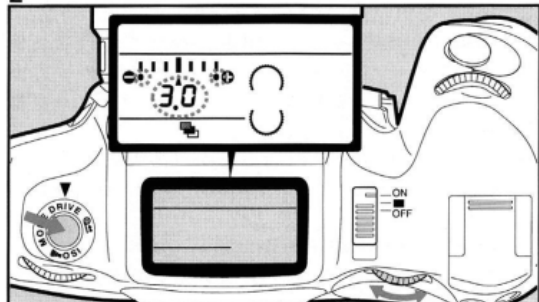
1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

* 表示パネルにバーグラフと補正値が表示されます。

* 電源スイッチがグリーンポジション  では、オートブラケット撮影はできません。

応用的な使い方

2



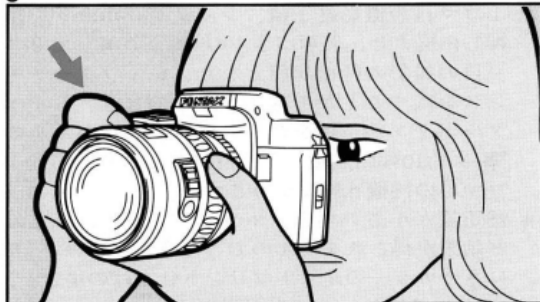
2. モードセットボタンを押したままAvダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

* 補正は-4～+4 EVの範囲で0.5 EVごとに行えます。

* バーグラフの黒丸の移動量1つが0.5 EVに相当します。

ただし、-3～+3 EVを越えて設定した場合は、表示パネルのバーグラフの あるいは が点滅して知らせます。

3



3. シャッターボタンを押し切ると、記憶させた補正量に従って3コマ連続的に撮影されます。

* 1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で撮影されます。ただし、撮影中に明るさが変化した場合は、シャッターが切れる直前の明るさに対してオーバー・アンダーに制御されます。

* 電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。

60

* 1コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの が点滅して2コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンス待つことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの は約10秒間点滅した後点灯に変わり、再度1コマ目の待機状態に戻ります。

* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)

* オートブラケットティング撮影中は、1コマごとに測光を行いません。

* ピントは、1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

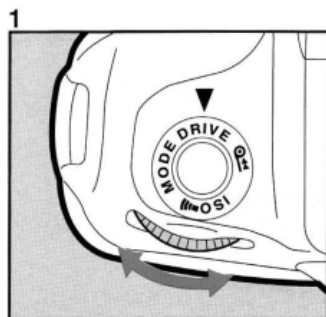
* 内蔵ストロボを使用すると、オートブラケットティング撮影モードは解除され、1コマ撮影モードになります。

露出補正と組み合わせて使う場合

「露出補正」(56ページ)と組み合わせて使うと、例のようにオーバー方向(+)のみやアンダー方向(-)のみの、より高度なオートブラケットティング撮影が可能です。

例) オーバー方向だけの補正をかけるとき。

1. オートブラケットティングの補正量を±0.5EVに設定する。
2. +0.5EVの露出補正をかける。(56ページ参照)
3. この状態でオートブラケットティング撮影をすれば、1コマ目=+0.5EV・2コマ目=±0EV・3コマ目=+1EVの補正がされます。

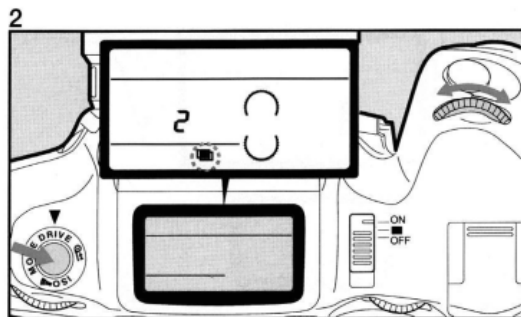


3) 多重露出撮影の使い方

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。

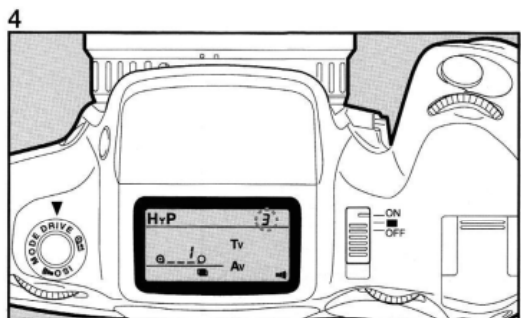
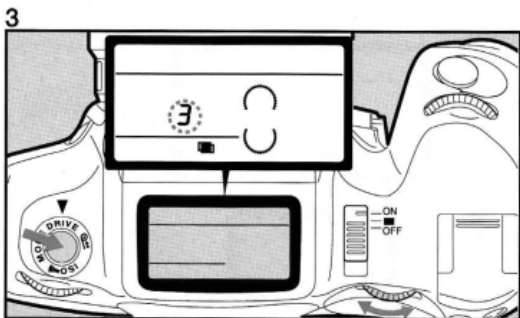
多重露出では、背景が黒いもの（夜景など）に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良好の結果を得ることができます。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。



2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

応用的な使い方

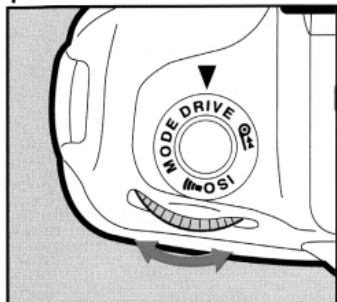


3. モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数（1コマの中に写し込む回数）を決めます。

- * 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2～9回です。
4. モードセットボタンから指を離すと、設定した回数が表示パネルの右上に表示されます。

- * シャッターボタンを押して撮影する度にこの表示は減算されます。
- * 多重露出の途中は、LCD表示パネルの  が点滅してお知らせします。
- * 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを **OFF** かグリーンポジション  にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを **ON** に戻したとき、1コマ撮影モード  になります。
- * 撮影終了後は多重露出の回数設定は2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影  になります。

1

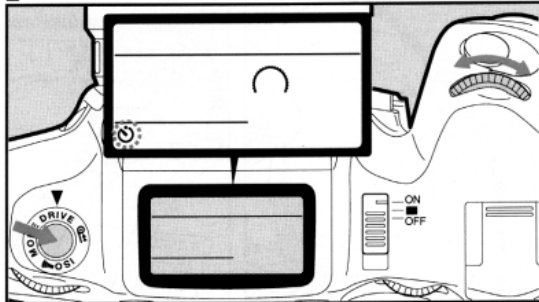


4) セルフタイマー撮影の使い方

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。

2

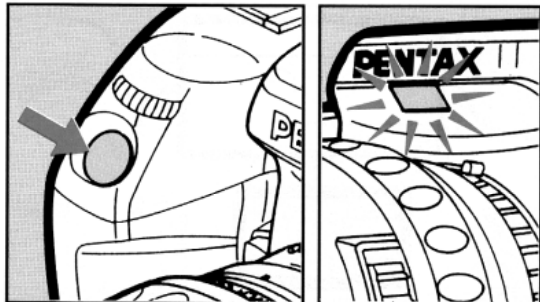


2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

応用的な使い方

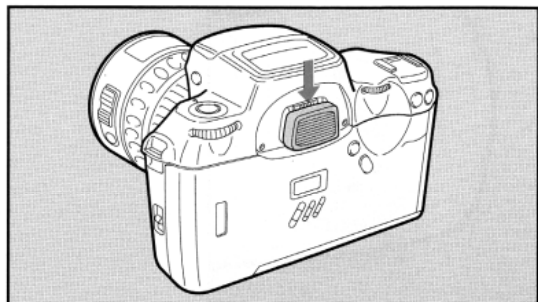
64

3



3. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。

- * セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピッピッピ」になります。なお、 設定により、電子音を消すこともできます。



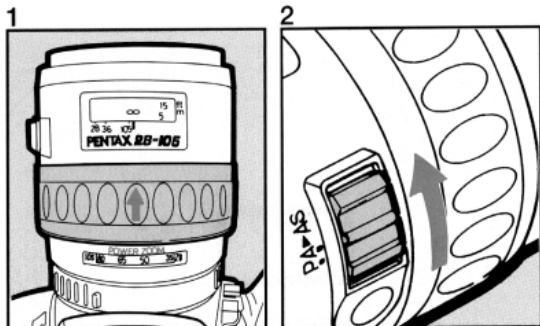
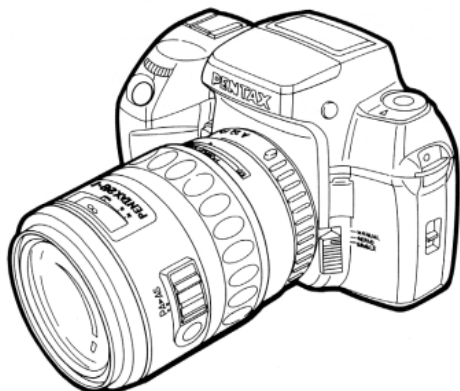
- * セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを **OFF** にしてください。この場合、セルフタイマー撮影モードは解除されません。
- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(44ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。
- * フォーカスモードが **SINGLE** のときは、ピントが合わないとセルフタイマーは始動しません。

応用的な使い方

FAズームレンズをZ-5と組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

①ズームクリップモード

②露光間ズームモード

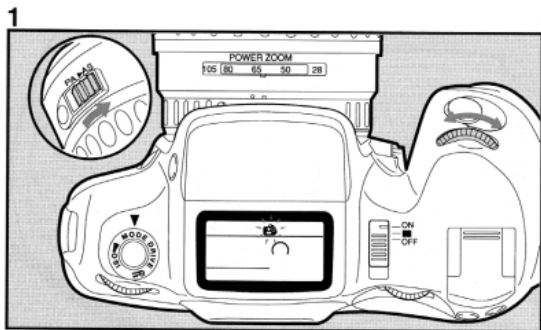


オートズーム機能を使うための準備

1. 図のように「POWER ZOOM」が見える状態にします。
2. レンズのオートズームスイッチを「A」（一部のレンズでは「AZ」）に合わせます。

* これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。

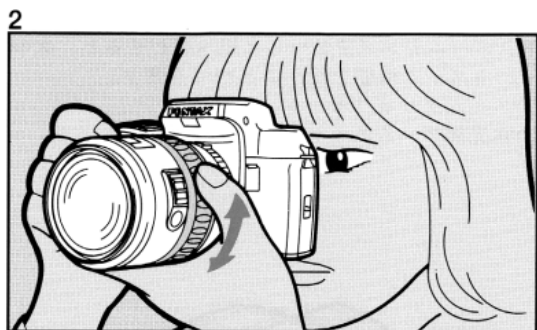
応用的な使い方



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

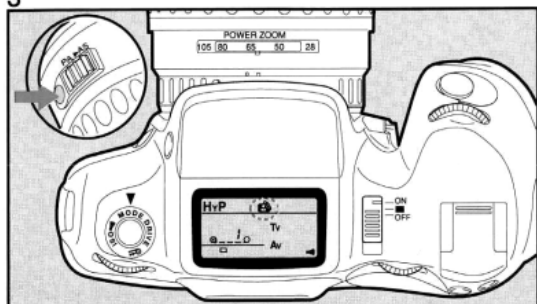
例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲（焦点距離）を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。



1. レンズのオートズームスイッチを「AS」（一部のレンズでは「MODE」側）に押し付けたままTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルの「AS」表示を点滅させてください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

応用的な使い方

3



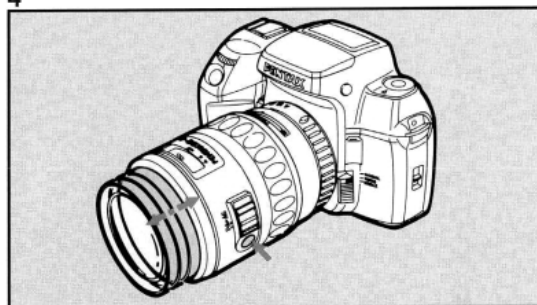
3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの 表示が点灯に変わり、焦点距離が記憶されます。

* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。

* 電源スイッチを **OFF** にしても、記憶した内容は消えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。

* 電源スイッチが **ON** またはグリーンポジション のままレンズを外したり、レンズの交換をすると記憶している内容が消えてしまいま

4



す。記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを **OFF** にした状態で行ってください。

4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

* ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。

応用的な使い方

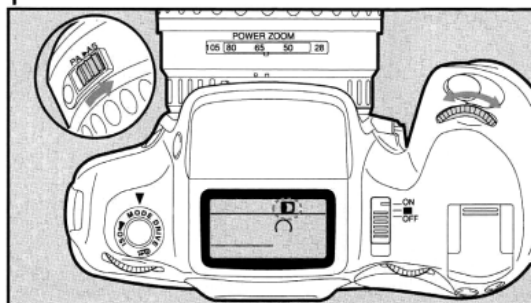
68



②露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。

1



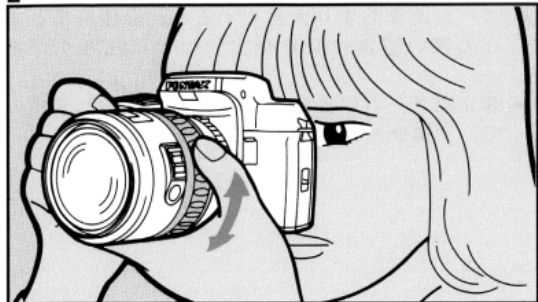
1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部のレンズでは **MODE**) 側に押し付けたまま **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに 表示を出してください。

* 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。

* 露光間ズームモードでは、外付けストロボを後幕シンクロにセットしても先幕シンクロで制御されます。

応用的な使い方

2



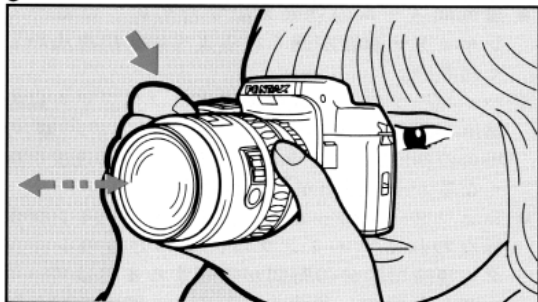
2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

- * 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。
- * ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション  の場合のみ)では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。
- * シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半(シャッター速度の残り時間)でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。

応用的な使い方

70

3



- * ズーム比をあまり大きくすると、全体にまどまりの悪い写真になりやすいのでご注意ください。
- * 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

3. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

- * シャッター速度が速いと、ズーミングする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないのので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~105mmレンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~105mmまでのズーミングはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズーミング終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。

応用的な使い方